

○磐井驛

此驛より前澤殿ノ間関山中尊子アリ御巡覽
可然御覽畢テ水沢御泊

○岩手縣御駐紮中二日

○青森縣御駐紮中二日

九年五月十日

大臣三條景家

御巡幸御用掛寺

参議大保小膳

御巡幸陸路青森ニ被為 至

御歸途海路

御乘艦

御破泊場等別紙之通御定相成可然
哉此段相伺候也

官本局

二十九

大文

御歸途海路

青森

函館、海里五十二里

此所より

御乗船

函館

宮古、百五十五里

御碇泊ノミニテ

御上陸無之

宮古

横濱、三百五十里
八全石、十四里

御碇泊是ヨリ横濱へ御歸船ノ積

最ニ時互ヨリ八全石、御寄船

御遊覽可相成哉

大正

大正

7 8 9 320 1 2 3 4 5 6 7 8 9 330 1 2 3 4 5 6 7 8 9 340 1 2 3 4 5 6 7 8 9 31

株式会社 テンノオアージュ

仰出陸路青森、行る 至
日所より 仰乘艦 還幸可成分者、
海路里數并 仰滞艦 仰寄艦可
相成場所等 委細取調至急可差出
此方相違及事

右大臣公事

御自之被差上幸、海路、
昨より申之、國、大里、品川、
海路、御寄艦、御寄艦、
里數、海軍、出、早、
此、申、也

九年五月

上方大史 勘杉 宮田少輔

還幸之節、
御寄艦、

7 8 9 320 1 2 3 4 5 6 7 8 9 330 1 2 3 4 5 6 7 8 9 340 1 2 3 4 5 6 7 8 9 31

御着禮未成回所より深車より方
教令と存問此島は中々金も他

品川御發艦

陸前國寒風澤御滯艦

品川ヨリ寒風澤ニ至ルマテ一ノ御艦ヲ寄ス
ヘキ港灣ナシ

寒風澤ハ時節ニ由リ碇泊安全ノ地ニアラス
故ニ衆船其時ニ從ヒ近傍ニ於ケル石濱或ハ
勝木ウ浦ニ碇泊地ヲ轉ス然レモ今茲ニ
寒風澤ヲ御滯艦地ト掲ケシハ其名ノ他
ヨリ著シキヲ以テナリ

寒風澤ヨリ御端舟ニテ

同國塩尻ノ御上陸夫ヨリ

仙臺宮城縣
右廳地ノ御陸行

7 8 9 320 1 2 3 4 5 6 7 8 9 330 1 2 3 4 5 6 7 8 9 340 1 2 3 4 5 6 7 8 9 31

岩澤御發艦
岩手縣令ヲヨル

港御發艦
館御滯艦

岩手縣令ヲヨル

御發艦

宮古港御入艦

函館御滯艦

寒風澤ヨリ函館ノ間金花山ノ名地又釜石ノ鑛爐アリ何レモ御艦ヲ寄セテ危險ノ

地ナラス又山田、鉦ヶ崎、ノ良港アリ然レモ皆僻野ノ地ニシテ一ノ着ルヘキモノナシ

函館御發艦

青森御滯艦

此地ヨリ御歸艦不相成尚御進艦ノ義ニ候

青森御發艦

羽後國舟川御滯艦

舟川ヨリ久保田秋田縣在廳地御陸行

舟川ヨリ久保田ノ里程ハ六七里道路ニ高低アリト雖モ車馬ヲ通スルニ難カラス

鶴ヶ岡縣官ヲ秋田縣ニ召寄リセラル

舟川御發艦

羽後國酒田御滯艦

御見合

7 8 9 320 1 2 3 4 5 6 7 8 9 330 1 2 3 4 5 6 7 8 9 340 1 2 3 4 5 6 7 8 9 31

武澄 印發艦
港 御發艦
館 御滯艦

寒風澤ヨリ鹽竈ノ海上凡三十六町里ニシテ
四里許鹽竈ノ海岸ハ干潮ノ時ニ方リテハ
端舟モ亦達シ難シ

鹽竈ヨリ仙臺ニ至ル四里ノ路程ニシテ其道平
坦車馬ニ宜シク且多賀ノ城ノ碑宮城野等ノ
名區其治道ニアリテ當國最一ノ勝地トス
鹽竈ヨリ松島ヘ四里許舟行最モ奇觀ニシテ
陸行ハ甚夕佳ナラス

磐前若松福島山形ノ縣官ヲ宮城縣ニ寄セラレ
寒風澤御發艦

宮古港御入艦
函館御滯艦

寒風澤ヨリ函館ノ間金花山ノ名地又釜
石ノ鑪爐アリ何レモ御艦ヲ寄セテ危險ノ

地ナラス又山田、鉦ヶ崎、ノ良港アリ然レモ
皆僻野ノ地ニシテ一ノ着ルヘキモノナシ

函館御發艦

青森御滯艦

此地ヨリ御歸艦不相成尚御進艦ノ義ニ候ソ

青森御發艦

羽後國舟川御滯艦

舟川ヨリ久保田秋田縣
在廳地御陸行

舟川ヨリ久保田ノ里程ハ六七里道路ニ高
低アリト雖モ車馬ヲ通スルニ難カラス

鶴ノ岡縣官ヲ秋田縣ニ寄セラレ

舟川御發艦

羽後國酒田御滯艦

御見合

7 8 9 320 1 2 3 4 5 6 7 8 9 330 1 2 3 4 5 6 7 8 9 340 1 2 3 4 5 6 7 8 9 31

寒風澤御發艦
宮古港御入艦

宮古港御發艦
函館御滯艦

岩手縣令ヲヨメル
御發艦

宮古港御入艦
函館御滯艦

寒風澤ヨリ鹽竈、海上凡三十六町里ニシテ
四里許鹽竈ノ海洋ハ干潮ノ時ニ方リテハ
端舟モ亦達シ難シ
鹽竈ヨリ仙臺ニ至ル四里ノ路程ニシテ其道平
坦車馬ニ宜シク且多賀城ノ碑宮城野等
名區其治道ニアリテ當國最一ノ勝地トス
鹽竈ヨリ松島ハ四里許舟行最モ奇觀ニシ
陸行ハ甚夕佳ナラス

段前若松福島山形ノ縣官ヲ宮城縣ニ寄セラレ

寒風澤ヨリ函館ノ間金花山ノ名地又釜
石ノ鑛爐アリ何レモ御艦ヲ寄セラ危險ノ

地ナラス又山田、鋤ヶ崎、ノ良港アリ然レモ
皆僻野ノ地ニシテ一ノ着ルヘキモノナシ

函館御發艦

青森御滯艦

此地ヨリ御滯艦不相成尚御進艦ノ義ニ候

青森御發艦

羽後國舟川御滯艦

舟川ヨリ久保田秋田縣
在廢地御陸行

舟川ヨリ久保田ハノ里程ハ六七里道路ニ直
低アリト雖モ車馬ヲ通スルニ難カラス

鶴ヶ岡縣官ヲ秋田縣ニ寄セラレ

舟川御發艦

羽後國酒田御滯艦

御見合

7 8 9 320 1 2 3 4 5 6 7 8 9 330 1 2 3 4 5 6 7 8 9 340 1 2 3 4 5 6 7 8 9 350

御寄合次第

酒田港ハ夏時ハ御寄艦ニ差支ナシ然レハ
極メテ安全ト云フニアラス

酒田縣御寄艦

越後國新瀉新瀉縣在轄地御滞艦

新瀉ハ殊ニ安全ノ碇泊地ニアラス然レハ夏時ハ
擊泊ニ難カラス但シ同地滞泊ノ大船ハ常ニ
難ヲ佐渡國夷港或ハ小木港ニ避クルニ
備ツナセリ

石川長野置賜縣官ヲ新瀉縣ニ召寄セラル

東北海諸港等里程表

英國海上里法ヲ以テ算ス其一里ハ
我十六丁九分七厘五毛ニ當ル

御寄艦地名及順次之
里數

品川碇泊場ヨリ各所燈臺及御寄艦地ニ之直航里數

品川碇泊場ヨリ	走水燈臺工	貳拾壹里
野島燈臺工	四拾九里	
寒風澤工	百貳拾五里	
犬吠岬燈臺工	貳百八拾六里	
寒澤工	貳百八拾六里	
金花山燈臺工	貳百八拾五里	
釜石工	三百五拾五里	
尻谷岬燈臺工	四百八拾貳里	
箱館ヨリ	五百三拾里	
箱館工	五百三拾貳里	
青森工	六百五拾貳里	
青森ヨリ		

寒風澤ヨリ
宮古港工
凡百四十里

宮古港ヨリ
箱館工
凡百四十里位



御都合次第

酒田港ハ夏時ハ御寄艦ニ差支ナシ然レモ
極メテ安全ト云フニアラス

酒田縣御寄艦

越後國新瀉新瀉縣
在廳地御滞艦

新瀉ハ殊ニ安全ノ碇泊地ニアラス然レモ夏時
撃泊ニ難カラス但シ同地滞泊ノ大船ハ常
難ク佐渡國弟港或ハ小木港ニ避クルル準
備ナセリ

石川長野置賜縣官ヲ新瀉縣ニ寄セラレ

東北海諸港等里程表
御寄艦地名及順次之
里數

英國海上里法ヲ以テ算ス共一里ハ
我十六丁九分七厘五毛ニ當ル

品川破泊場ヨリ各所燈臺及御寄艦地ニ直航里數

品川破泊場ヨリ

走水燈臺工 貳拾壹里

寒風澤工

野島燈臺工 四拾九里

貳百八拾六里

犬吠岬燈臺工 百貳拾五里

寒風澤ヨリ

寒澤工 貳百八拾六里

箱館工

金花山燈臺工 貳百八拾五里

貳百六拾五里

釜石工 三百五拾五里

箱館ヨリ

尻谷岬燈臺工 四百八拾貳里

青森工

箱館工 五百三拾里

六拾里

青森工 五百三拾貳里

青森ヨリ

土寄工 六百五拾貳里

寒風澤ヨリ
宮古港工
九百四十里

宮古港ヨリ
箱館工
九百四里位

7 8 9 320 1 2 3 4 5 6 7 8 9 330 1 2 3 4 5 6 7 8 9 340 1 2 3 4 5 6 7 8 9 350

土寄工
 百四拾八里
 土寄ヨリ
 酒田工
 五拾里
 酒田ヨリ
 新瀉工
 七拾里
 新瀉ヨリ
 七尾工
 百拾五里

酒田工
 新瀉工
 七尾工
 六百九拾貳里
 七百五拾三里
 八百六拾五里

船ノ開四百四十里

山石手氣下釜石より空見海止海路里程
 二里から七里あるが、越え越え越え越え
 左に色色ありて極之に及乃々回るる
 也

九月五月十日 大鳴驛島

土方古本局

釜石陸より空見海陸止海路五里
 八拾里



青森ヨリ箱館、六十里 箱館ヨリ
宮古ヨリ。釜石、百七十里 釜石ヨリ
寒凡沢ヨリ。横濱 宮古、百六十里
寒凡澤、八十里

○印ハ凡波ノ都合、寄、脚立寄、
箱館ハ御艦、都合、寄、

7 8 9 320 1 2 3 4 5 6 7 8 9 330 1 2 3 4 5 6 7 8 9 340 1 2 3 4 5 6 7 8 9 31

株式会社 テンノオアージュ

青森

五十二海里

函館

百五十五海里

宮古

十四海里

釜石

百海里

奥名

二百五十二海里

立山

二十海里

三百五十海里

海軍省



横廣

供奉官員宿衛

大臣

從者三人

計四人一軒

顧問

從者三人

宮内御用掛
近藤

計四人一軒

參議

從者二人

計三人一軒

史官

從者二人

判任

三人

等外

三人

計十人一軒

三十

横廣

供奉官負宿宮

大臣

從者三人

計四人一軒

顧問

從者三人

宮内省御用掛
近藤

計四人一軒

參議

從者二人

計三人一軒

史官

從者二人

判任

三人

等外

三人

計十人一軒

戊

三十

陸軍省ノ御達

奥羽地方ノ御巡幸ノ旨ニ依テ衛士官十名騎兵一
小隊供奉被仰付候條此旨相達ノ事

明治九年五月八日



同省

今般奥羽地方

御巡幸ニ付供奉ノ士官兵負ホノ旅費其他陸軍
属ニ候要費ハ其省常額金ヨリ支出候儀ト可
心得此旨相達候事

明治九年五月八日



海軍省ノ御達

今般奥羽地方 御巡幸青森港ヨリ御乗艦
還幸被為右候條此旨相心得委細之儀ハ
宮内省ト協議可致此旨相達候事

三十三
七十六

7 8 9 320 1 2 3 4 5 6 7 8 9 330 1 2 3 4 5 6 7 8 9 340 1 2 3 4 5 6 7 8 9 31

株式会社 テンノアージュ

陸軍省ノ所達

奥羽地方ノ御巡幸ノ旨近衛士官十名騎兵一
小隊供奉被仰付候條此旨相達ハ事

明治九年五月八日



奥羽
陸軍省

同省江

今般奥羽地方

御巡幸ニ付供奉ノ士官兵負ホノ旅費其他陸軍
属ニ候要費ハ其省常額金ヨリ支出候儀ト可
心得此旨相達候事

明治九年五月八日



海軍省江御達

今般奥羽地方 御巡幸青森港ヨリ御乗艦
還幸被為右候條此旨相心得委細之儀ハ
宮内省ト協議可致此旨相達候事

三三
十六
七六

7 8 9 320 1 2 3 4 5 6 7 8 9 330 1 2 3 4 5 6 7 8 9 340 1 2 3 4 5 6 7 8 9 350

株式会社 テンノオナーヂ

但供奉ノ士官及諸艦乗組兵負其外ノ
旅費並諸艦運轉ノ諸費等總テ海軍ニ属シ
候以下陸軍同要費ハ其省常額金ヨリ支出セ儀ト可心

明治九年五月八日

大藏省（御達按）

奥羽地方 御巡察ニ付陸海軍ニ属スル費用之儀
別紙之通陸軍省海軍省へ相達候條此旨可
相心得事

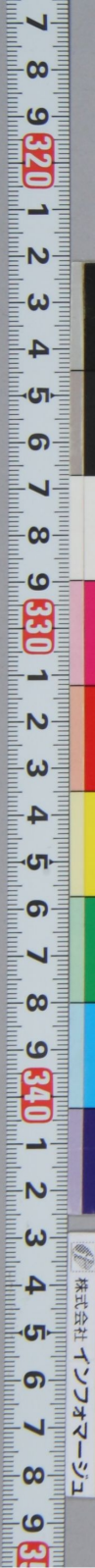
明治九年五月八日

開拓使 江御達

今般東国第
市迄幸 初為 五假、分テハ時宜ニ依リ函館表
社為 迄候儀ニ可方之假條此方考心得
相達及事

方 長官、市内迄方之假テハ
同拓使、達ニ不及事、岩倉

大藏省



但供奉ノ士官及諸艦乗組兵負其外ノ旅費並諸艦運轉ノ諸費等總テ海軍ニ属候以下陸軍同支要費ハ其省常額金ヨリ支出ス儀ト可

明治九年五月八日

大藏省ニ御達候

奥羽地方 御巡察ニ付陸海軍ニ属スル費用之別紙之通陸軍省海軍省ニ相達候條此旨相心得事

明治九年五月八日

開拓使 江御達

今般東國第 御巡察ニ付在假ニ付テハ時宜ニ依リ函館表社為込候儀之可方之假條此旨為心得相達及事

方長官、市内通方之假、如何、宜、事、同、抄、候、達、不、及、事、



六月廿二日 宮城
 御着 葦
 中 御着 葦
 廿 御着 葦
 七月三日 岩手
 御着 葦
 中 御着 葦
 七月十二日 青森
 御着 葦
 中 御着 葦

三十七丁

山形

二十六丁

鶴ヶ岡

四十三丁十九丁

宮城

七十一丁十三丁

秋田

三十五丁十四丁

岩手

五十一丁三十一丁

青森

十日 一日程

十一日 一日御滞留

十三日 二日程

十四日 一日御滞留

十五日 四日程

十六日 四日程
天松御出廳
 磯 同島

十七日 七日程

二十日 一日御滞留

三十一日 三日程

才の森ヨク横濱ヨク海路里數

調書ヨク水廻相成度此段。入也

九年五月十日

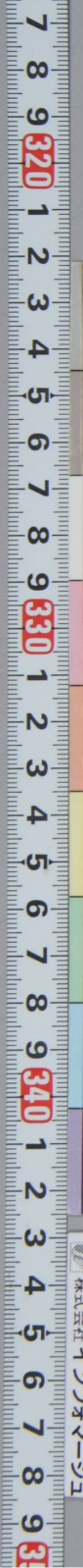
宮田左少丞

正院

津巡幸津浦取調所

五年

右即時相廻ニ付返考畧ス



九年五月十日

十日亥

大臣

藤

峯

大久保

市川幸市

吉方

金井

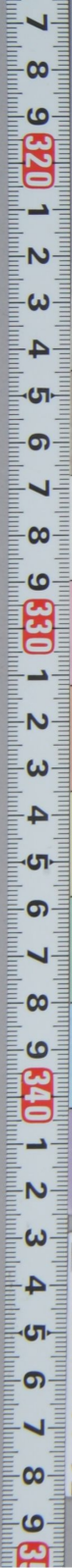
参議

大隈

開拓使、市達案

今般奥羽

御巡幸陸路青森、被為 至同所
御乘船 還幸之節 函館港市碇
泊相成候條此段為心得古達候事



明治九年五月十一日

大臣三條 奏

考議

大條 大隈

御巡幸御用掛芳

金井

御東巡海路御還幸被 仰出候ニ付テハ左ニ通外務省、
御還相成可然哉

御達按

外務省

今般

御東巡海路還幸被 仰出候ニ付而者同港場御碇泊
等之砌外國領事御艦ニ相付候節其他外國ニ對シテ定、
礼式可有之廉々取調之上可伺出事

7 8 9 320 1 2 3 4 5 6 7 8 9 330 1 2 3 4 5 6 7 8 9 340 1 2 3 4 5 6 7 8 9 350

明治九年五月十一日

大臣三條岩倉

參議森大隈

御巡幸御用掛芳金井

今般御巡幸青森ヨリ海路御還幸被 仰出候ニ付テハ
開港場御碇泊其他海上ニ於テ外國船ニ對スル諸式等
工部海軍兩省打合之上取調可伺出様御達相成可然哉
因テ御達按左ニ相伺候也

海軍省

工部省

今般陸羽御巡幸青森ヨリ明治九年還幸被 仰出候
ニ付テハ開港場御碇泊其他海上ニ於テ外國船ニ對スル諸

7 8 9 320 1 2 3 4 5 6 7 8 9 330 1 2 3 4 5 6 7 8 9 340 1 2 3 4 5 6 7 8 9 31

式等両省打合之上夫可伺出事

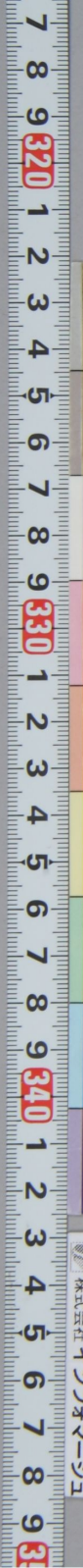
大西官

又之味 百 九 十

吉本海防の修立
衆事 著 皇 自 々 々 海 上 之 務 外 國 船
二 對 之 法 式 之 考 査 之 事 越 後 之
十 五 年 之 海 上 之 務 外 國 船 之
点 之 考 査 之 事 越 後 之
中 之 考 査 之 事 越 後 之
中 之 考 査 之 事 越 後 之

中 之 考 査 之 事 越 後 之

海軍秘書長



株式会社 テンノオアージュ

初十三日

明治九年海上諸式之儀ニ付上答

今般真羽地方

仰幸青森港ヨリ明治九年ニテ

還幸禮 仰出此ニ付テ八開港後

仰破泊其地海上ニ於テ外國船ニ對

スル諸式等海軍者、亦合、上の伺

出方、亦遠之、勅政、亦出、右者

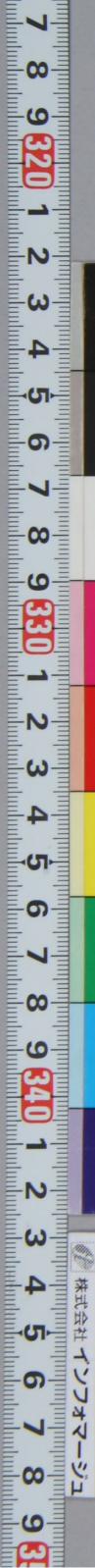
回省、亦合、亦處、外國船ニ對スル

儀ニ一、邊之諸式モ亦之、ハ、軍ニ

一の、後、義モ子之、對ニ、伊、海軍

少將儀、右、明治九年、乘、總、禮、仰、付、此ニ

付、悉、皆、同、人、ニ、於、テ、亦、不、於、合、局、ニ



株式会社 テンノオアージュ

之拙回計此類ニ付尚者有り別取
諸式等一の同出儀之此は取
及之答也

工部卿伊藤博文代理

明治九年五月三日 工部大輔山尾庸三

太政大臣三條實美殿

甲辰年六月

河東巡之番外國、

禮式之儀上申

力了叙 河東巡海路還幸

禮儀出立之付多々 拜儀場古碓泊

少之節 外國領事は禮儀有

及御座他外西、對し一定之禮式

之有、禮式之儀上申

有、之趣 御儀之類、外國

對し之禮式、彼我軍禮儀

祝砲ヲ施行スル、外、前年

西正所巡幸、并、横濱加賀松幸

之節、之儀、有、之、子、右

五十

十卷



株式会社テクノアート

一義ハ年々ハ有ル山ノ意見
上申

九年五月十五日 御務 古島宗則

古島宗則之條 宗義殿

送刻 山依歌 山皇孫 送歌

山皇孫 山皇孫 山皇孫 山皇孫

山皇孫 山皇孫 山皇孫 山皇孫

山皇孫 山皇孫 山皇孫 山皇孫

山皇孫 山皇孫 山皇孫 山皇孫

山皇孫 山皇孫 山皇孫 山皇孫

山皇孫 山皇孫 山皇孫 山皇孫



心昔而凡の先解中まゝ人あゝぬ
馬車を計り申すに副
本百餘のり申すの先少後
に何れもいぬしは
ふらりもや
し
馬車のみ

今般

市東也還幸之節明以丸の蓋にお城へは
市發着其他有以の國人
難中 就るまは伊波等下ぬる道
年々有るに用う百之少るを日般
其まをいぬしは一應承知し
けりや
以て五年五月廿六日 山方左史

六十日

大文



株式会社 テンノオロジー

工部大少丞



第百九拾五號

今般
御東巡還幸之節明治九年乘込
通辨者之義分特念御都合之
越多承知候尤為奉但候之方
之候此等由故申進也
九年五月十日
吉井工部大丞

工部大史殿

市巡幸分主森港に由りて
 船名 海軍少佐の及可也直、中
 ありしに也
 九年五月二十日
 土方大佐

海軍少佐 土方大佐

大文
 八十五
 海軍少佐
 土方大佐



今夜

此の字より三つあるの由記

主なるが 印あるの字を 信する、船を以て
丸及び 高層車、船、少遊、之、が
名付はるる者、あやふ、各、船、之、者、者、
信する、主なるが、所、者、者、者、
了、行、記、ソ、カ、ア、シ、同、之、以、テ、
船、主、の、以、所、之、字、シ、ハ、新、子、者、が、
之、等、之、等、之、等、之、等、之、等、
之、等、之、等、之、等、之、等、之、等、
林海軍云

土方正平の居



今般

仰也奇しき事毒衣より海河

星と幸なり 仰出さるるは信事年無事

事すやあふふと及ふ事すやあふふと及ふ事

子あふふ事すやあふふと及ふ事すやあふふと

及ふ事すやあふふと及ふ事すやあふふと及ふ事

九年十月廿九日

吉乃生史

其何事と云は

心文

大正



株式会社 イノフオーブ

行幸等之節ハ遷卒延長等ニテ先導ハ勤
候例ニ有之及處高格ヲ絶居當一應創以來
八テ回始テノ儀ニ有之及尤ニ警察官ニテ先
導不相勤候テハ獨體裁ラ失レ候而己ナラス
取締上ニ於テモ不都合不少且歐洲各國ニ於テモ
國帝臨幸又ハ外國帝王事調号盛典ノ行利ニハ
總ラ該都府ノ警察官ニテ先驅致候ニ
一組ノ通則トモ向テ此ノ中係也

今般

御巡幸海路

還幸之節供奉官負艦船乗組之儀別
紙三葉之通取極ニ置我間為心得也
入置也

九月廿九日

宮内大少丞

正院

御巡幸御用取調所

御中



赤名 明江丸乗組

上等之公

勅任五人

大長二人
長藏一人
中長御一人
侍従長一人
海軍将官一人

素任五人

出陣者一人
官内四人
侍従長一人
侍従二人
大長御一人
中長御一人
侍従一人
海軍士官三人
海軍士官五人

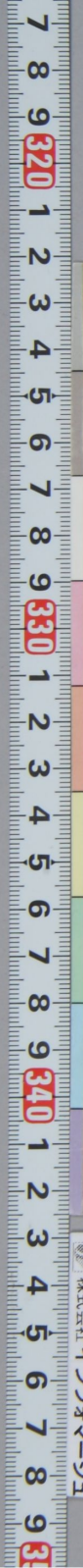
中等之公

判任 青丸丸 三拾三人

主任一人
大長御二人
中長御一人
内儀御八人
御内儀八人

内廷殺子土人
取者 一人
海軍士官 一人
正長青丸 一人
任五人 一人
海軍士官 六人

官
内
儀
御
八
人



下等分

格五人

奉率三人
銅丁二人
候者十人

×七格三人

テール号組
上等分

勅任少人

顧問一人
官田中輔一人

奏任格人

官田中一人
侍從番長一人
侍從四人
海軍士官二人
近江芳樹

判任六人

幕府生一人
庶務部御膳二人
内通課二人
調度課一人
内廷課一人

×格八人

宮内省

宮内省



中等之分

判任五人

内儀課二人
内廷課三人

外任在拾九人

内儀課二人
内廷課五人
從者五人
小指工二人
職工二人

又廿四人

會計四拾部人

運送船乗組

勅任

參議一人
大史一人

奏任拾部人

内務 四人
大藏 一人
陸軍士官 六人
官内近 一人

判任廿四人

主記 二人
内務 五人
大藏 二人
幕副生 二人
幕副生 二人
在船課 一人
お納課 一人
内儀課 一人
内廷課 一人
内中掛 一人
内庭課 二人
内庭課 二人

外任在拾六人

内正院 一人
内正院 一人
内正院 一人
大藏 一人
内廷課 一人
内廷課 一人
從者 三人
職工 四人
吏卒 七人
小指 十人

7 8 9 320 1 2 3 4 5 6 7 8 9 330 1 2 3 4 5 6 7 8 9 340 1 2 3 4 5 6 7 8 9 350

八拾六人

明治九年五月廿九日

清心寺の用掛

宗
寺
金
子
後

借奉る面々此寺に宗

此寺に先り多し門出入り交清借服者用
之者ハ其體孔面乃石若僧服相用之者ハ
在末ノ門體ヲ以道乃致之扱之在宗ノ系ニ
此者官有借奉る之向ハ在方此之計可者之也

各省大少司此

史官



事如左
御幸御用掛
大臣
参議

九年五月三十日

御幸御用掛

大臣

参議

御幸之節所召船隻艘次船隻廻
航費用之候宮内者より別紙にて
申越候旨外御幸費用様別達
市出方取成之候外取方取成者
下二部海軍両省へ御達事旨付
付



手
△

明治九年五月三十日

大津
参議

御
御用掛

△御
御按

内
御

工
部省

明治九年五月三十日
費用之儀別途下渡候條取方大蔵省、可申出申事

海
軍省

御東巡幸之節御警衛軍艦之外運送船一艘青森
港、廻艦可致者相違候存ラ費用之儀、別途下渡候
條取方大蔵省、可申出申事

大
蔵省

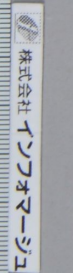
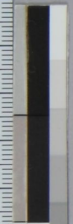
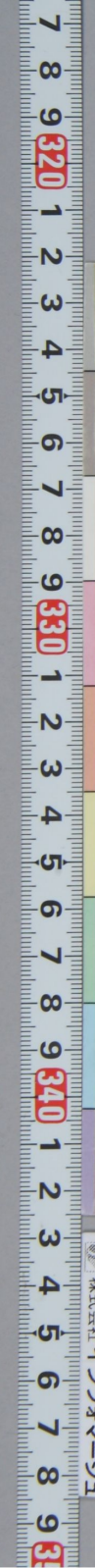
乙



別紙之通工部海軍兩省、相違候條、渡方可取計此旨
相違候事

所出年、是年、一、海軍省
費、同、海軍省、
切、海軍省、
切、海軍省、
切、海軍省、
切、海軍省、
切、海軍省、

草切、
三、
三、



御巡幸還幸之節海軍省より差出候
運送船之儀、付過日同省、及未合候節
右運送船入費之儀、別途居下渡之儀、相
成度旨林中候申聞居候儀、付此段宜
承知有之度也

九年五月廿九日

宮内大少丞

王方大史殿

追而別紙海軍省上請書及居込却候条由
落手有之度也

巡幸

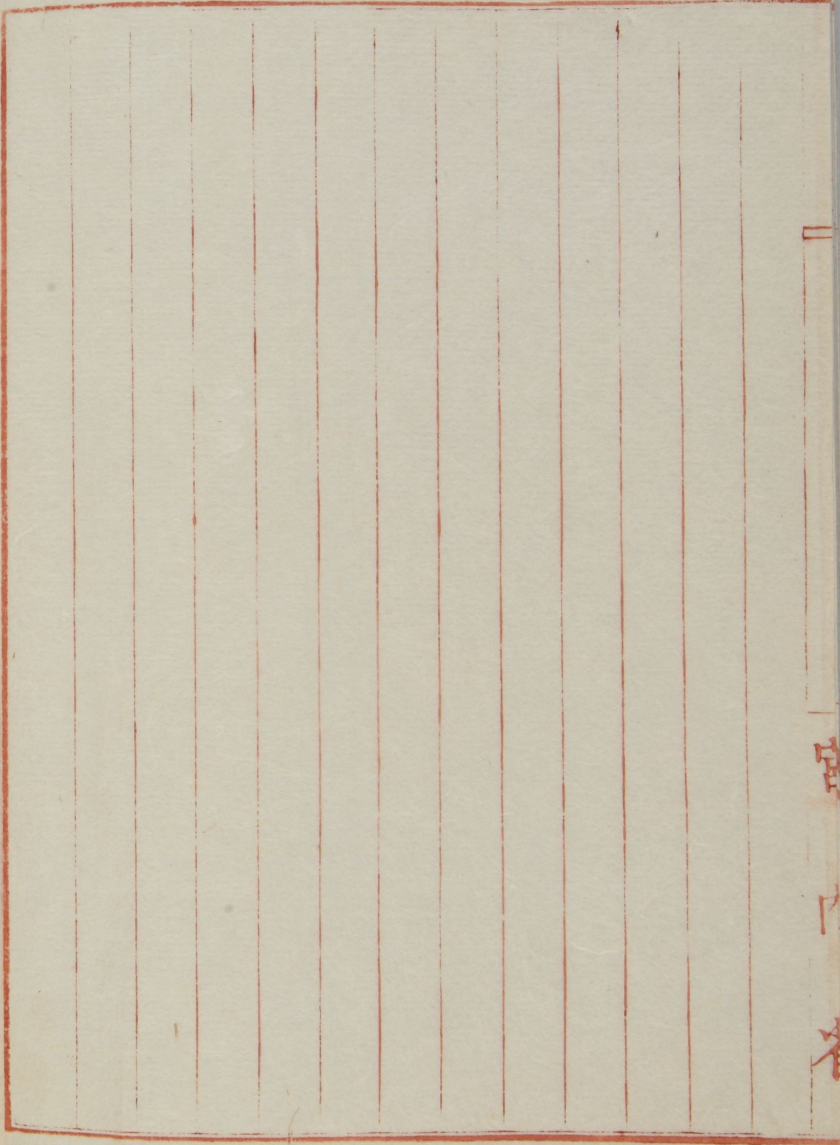
正才万〇三号

所東巡還幸之帝美出候運送船諸入
費之叙付上申

所東巡還幸之帝所發海軍船以艘
若虫陸進可美廻与相遠候番別運送
船之艘同陸進可相廻与一町六〇所遠相
成水魚一處軍船以艘美出候義一別
所遠相成候義年之候得共去八口所遠
之趣右之且所遠中運轉之諸費一統
高者帝額金以支出可致与所遠相
成候付軍船以艘所整言高として回船為
致水様所届仕置水次沙衣然今般
船運送船之艘可美出与所遠者

第五十三号

海軍省



之共、管下八者運送船諸入費、八口、成達、之外、
一、年、隔、到、金、而、下、后、不、成、事、一、存、在、的、也、
萬、一、出、下、后、年、之、水、而、一、常、額、金、全、採、合、七、不
却、合、三、我、年、別、后、出、下、后、成、成、水、極、仕、及、以
段、上、請、仕、也、也

明治九年五月廿六日 海軍大輔川村純義

大政大臣三條實美殿

御、巡、幸、法、休、泊、浪、賀、川、水、泊、の、森、野、法、休
二、本、松、水、泊、の、三、等、の、森、野、村、水、泊、の、
森、野、の、義、小、代、内、務、權、大、丞、の、森、野、
法、院、の、中、三、月、中、宮、親、の、水、泊、の、森、野、
至、其、名、考、案、水、先、考、の、森、野、の、申、越、し、に
有、り、少、く、疑、念、も、多、く、其、名、家、早、水、裁、下
お、成、る、所、に、其、名、浪、賀、川、の、福、島、
の、名、水、休、泊、請、水、案、示、し、り、存、在、及、出、照、會
也

九年五月廿四日

野邊宗七等仕五島孝健

川村権大主紀存

内務省

